

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。〔１１番 田中立一君登壇〕

○１１番（田中立一君）

市民ネット２１、田中立一です。

発言通告に基づき、一般質問を行います。

１、市内の観光の現状と取組について。

先ほど宮島議員が、ヒスイを求めて世界中から来られると、話がありましたけれども、コロナ禍が明け、通常の生活が戻り、全国各地の観光地にもコロナ以前のにぎわいを取り戻している様子が伝えられている。

特にインバウンドの増加が多く、既に宿泊単価の高騰やオーバーツーリズムの話題も聞かれるが、糸魚川市の観光の現状と取組を伺う。

（１）北陸新幹線について。

糸魚川駅が開業して１０年、敦賀まで延伸して１年、関西方面からの誘客に期待のかかるところだが、利用状況はどうか。

利用状況の促進策と観光効果に結びつく取組について考えを伺う。

（２）世界遺産に認定された佐渡への観光客増が見込めるが、西の玄関口としての取組についての考えを伺う。

（３）インバウンドの取組と市内入込状況をどのように把握しているか伺う。

また、白馬バレー、妙高市のインバウンドによるにぎわいが聞かれるが、隣接する糸魚川市としてはどのように捉えているか。さらに今後、富山市がニューヨークタイムズの「２０２５行くべき５２か所」に大阪とともに選ばれ、２０２６年秋開業予定の黒部キャニオンルートとともに注目されているが、糸魚川市としてはこの動きをどう捉えているか伺う。

２、農業・林業・水産業への温暖化の影響と対応について。

世界各地で地球温暖化が原因と見られる災害が発生し、さらに頻度が増して大規模化しているように思える。

市内においても近年、記録的な猛暑による熱中症リスクの上昇、農作物への悪影響、線状降水帯による豪雨での河川の氾濫や土砂災害の発生の危険性、深刻な干ばつによる農業生産量の減少や水不足の発生などの現象が見られることから、今回、一次産業への影響や取組について、市の考えを伺う。

（１）農業について。

① 猛暑による稲作の作柄・作況不良、一部地域では干ばつも見られたが、今年の作付に当たり対策について考えを伺う。

② 米の流通に変動が起きており、米価の高騰に国の動きも気になるところだが、糸魚川市の農家への影響について考えを伺う。

③ 暑さに強い品種改良について及び生産者からも期待の声が聞かれる「新大コシヒカリ」の普及について伺う。

（２）水産業では海水温の状況と魚種・漁獲への影響及び内水面の漁獲について、状況と対応の

考えを伺う。

(3) 林業では近年の土砂災害発生状況や生態系について、市内の状況を伺う。

3、市長公約について。

4年前の選挙公報によると「実現させる米田の公約」として。

(1) 経済では「新たな仕事を生み出す」として公民連携プラットフォームによる連携を。

(2) 安心では「地域医療の存続」。

(3) 教育では「未来の人材確保、学校教育のレベルアップ」。

(4) 活気として「サイクリングシティ構想スタート」。

(5) 未来に「豊富な水資源で水力発電の運用」。

を掲げ5期目に臨んだ。

市長在籍20年の集大成となる現状をどのように認識し、評価しているか伺う。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、3年度以降、乗客数は増加しております。

また、北陸新幹線延伸に伴う敦賀駅や大阪駅地下街において、独自イベントを開催しているほか、4月から開催する大阪・関西万博において、県と連携したPRを予定しており、関西方面からのさらなる誘客促進を図ってまいります。

2点目につきましては、当市を単なる通過点ではなく、周遊ルートの一部として滞在していただけるよう、上越3市で連携を図りながらPR等を行ってまいります。

3点目につきましては、近隣自治体等の状況は、当市にとって大きなチャンスと捉えており、インバウンド誘客につなげてまいりたいと考えております。

2番目の1点目の1つ目につきましては、関係機関との連携により、適切な水管理や追肥、土づくりなど、基本的な対策の徹底について、引き続き、周知してまいります。

2つ目につきましては、米価の動向が農家の生産意欲に結びつき、市内の生産量に影響を与えるものと捉えております。

3つ目につきましては、市内においても、高温耐性品種の作付が増加傾向であり、新たな品種の情報収集及び普及に努めてまいります。

2点目と3点目につきましては、現時点では大きな影響はないと捉えております。

3番目につきましては、公約の実現に向けて、全力で取り組んできたところでございまして、全て、やはり人口減少という中でそれを止める、また、増やすというような観点が、やはり一番のこの最大の効果だと思っておるわけでございまして、そのことで捉えた場合には、まだこの成果が出てないという捉え方をいたしておる次第でございまして、評価につきましては、私がするものではなくて、市民の皆様からしていただくものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

では、1番目から伺います。

コロナ禍が明けまして、旅行者も戻ってくるんじゃないかと。要は、ここで今回伺いたいのは、コロナで落ち込んだ観光客、これを、この5月で2年になるわけですがけれども、もう大分各地の観光地において、ここにも書きましたけれども増加傾向に見られる。さらには非常に多くの、コロナ以前の状況になっているという話を聞く中で、糸魚川市においても、例えばインバウンドにおいても、ちらほら外国人の方も見えるんですけれども、まだ弱いんじゃないかなというような印象も受けるところもあります。

今ほどの話ですと、いろいろと北陸新幹線についても増加傾向にあるというようなお話がありましたけれども、観光客の増加、あるいは推移については、いかが捉えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

市内観光客の推移につきましては、やはりコロナ禍前までには戻っておりません。現実には、8割程度かなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

8割程度、そのことについてどう思ってるかということが聞きたいんですよね。もっと、特にインバウンドについてどうなのかなと。観光を振興する背景としては、やはり急速に進んでおります人口減少、それから少子高齢化、これについての対応として、やはり交流観光、交流人口の拡大による経済効果というのは非常に大きいと。それから、多くの人を訪れる、交流するということによる魅力ある地域というふうにも映るわけでありまして、移住とか、あるいは定住とか、そういった面においても非常に大きな役割を果たす。そういった意味において、やはりしっかりと取り組んでもらいたいんですけれども、この現状をどのように認識しているでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

やはりコロナ禍前と今現在につきましては、やはり国民の意識も、また観光客の考え方等も変わってきておると思います。そのようなニーズに対応できるような施策、対応を調査検討させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

先ほど８割戻ってきてるという認識だというふうな話聞きました。これは、令和６年の話なのかどうか分かりませんが、能登地震があったりもしました。それについて、北陸の観光、応援割ですね、支援割があって、新潟県も含まれていたと。結構問合せもあったんじゃないかなと思うんですけども。それから、間もなく北陸新幹線の延伸、こういった追い風となるようなものがいくつかある中において、現在８割というのは、私はちょっとまだ弱いんじゃないかなと思って、今回、聞かせてもらいました。かなり頑張っておられて、いろんなイベントも打っておられるようなんですけども、それが、どれだけ今度、観光誘客に結びつくか、それが大事じゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

当市も様々な観光イベントのほうは出させていただいております。今現在、注力させていただいているのは、やはり北陸新幹線の延伸に伴う関西圏の観光客のほうを狙っておりますので、やはり選択と集中ということで取り組ませていただきたいと思いますと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

（２）の世界遺産のほうの佐渡のことなんですけれども、佐渡は世界遺産に認定されたのが昨年の７月でしたね。でも、やはりそれなりの日数がたっている中で、先ほどの市長答弁ですと、３市において連携を組むことによりと、何か具体的な考えがあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

佐渡が世界遺産に認定されたときに、上越３市の担当者間のほうで協議のほうを進めてまいりました。新年度に向けての動きでございますが、やはり直江津・小木間のフェリー等もありますので、上越市内で、上越地域３市で共通のクーポンを発行して、宿泊やお土産に利用していただけるようなものを今現在、協議中でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○ 1 1 番（田中立一君）

佐渡では、一時オーバーツーリズムにはならないぐらいの程度の観光客が入って、ただ、飲食店とか宿泊施設が不足ということで、結局、行くルート、行く手段が船しかないから、その周辺で、今度泊まる場所を探すということで、やはり、できれば世界遺産に認定される前から、その辺のところを見込んで動いていてもらいたかったなと思うわけですね。結局、今になって、何ていんでしょうか、そういう状況を見込んで周辺に泊まるといった場合、ちょっと糸魚川としては、他の2市に比べたら若干弱いんじゃないかな。

それで、もう一個については、新幹線を利用した場合には、関西方面からの上越妙高駅に比べたら優位性があるんじゃないかなと。もっとその辺をアピールしてもいいんじゃないかなと思うわけなんですけども、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

先ほども市長答弁ございましたように、今、北陸新幹線の延伸に伴いまして、関西方面でのPRのほうは続けさせていただいております。また、大阪・関西万博もこれから始まりますので、その中で、今ほど田中議員おっしゃるようなPRも努めたいと思っておりますし、また、新潟県では、佐渡の世界遺産を受けまして、中央4県、新潟、長野、山梨、静岡を結ぶ黄金街道プロジェクトというものも進めております。その中のルートには、糸魚川市が入っておりますので、そのような面も含めて、PRのほうには、今後努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○ 1 1 番（田中立一君）

先ほどの答弁で、今後、大阪万博、チケットの売上げは、当初目標の半分ぐらい現在、らしいんですけれども、それでも多くの方が行かれるでしょうし、そういったことを利用して、ぜひ誘客に努めていただきたいなと思うんですけれども、先ほどから話をしておりますインバウンドについて、当市の状況というものはどうなのでしょう。私、先ほど最初に経済効果言いましたけれども、コロナ前なんかよく話が出ていたのは、日本人の1人の年間消費支出の分は、大体外国人の宿泊8人分に相当すると。そういう話をよく聞いたりもしました。当市においては4年前が4万1,000人前後、今は3万8,000人を割ってますよね、7,000人台だったかなと思うんですけれども。それでいくと大体七、八百人ぐらいずつ減少しているということになるわけであって、年間。なので、この外国人の数でいくと、もし8人分とすれば、単純計算で6,000人前後ですか、700人から800人ぐらい年間減ってるわけですからね。なので、それぐらいずつ外国人も宿泊する取組をしていかないと、経済効果としては薄いんじゃないかなと、そのように私は思うんですけれども、インバウンドの状況、それと今の数字的な話なんですけれども、そういったことに対す

る考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

市で把握しておりますインバウンドの数は、宿泊者数しか把握はできておりません。やはり糸魚川市内に立ち寄る方、インバウンドの方はたくさんおられると思います。特に駅を使われて大型バスに乗って、148号で白馬のほうに向かわれる姿もよく見られます。ですが、私らで把握できるのは、宿泊者数ということでご理解いただきたいと思います。

また、そのようなインバウンドの方を、やはり経済効果というのは多くあるというふうに認識しておりますので、どのような形で当市のほうで回っていただけるかというのは、今後の課題だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

宿泊している数しか把握していないという、その宿泊している数はおっしゃっていただけないんでしょうかね。その推移というようなものはどうなのでしょう。ホームページにもあったので、大体把握はしているつもりなんですけれども、今後、推移やなんかはどのようになっていくんでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

失礼いたしました。外国人宿泊者数の推移でございますが、令和元年度、コロナ前ですね、当市には1,902人が宿泊されております。令和2年度では198人、令和3年度では20人、令和4年度では65人、令和5年度は1,874人でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

やはりコロナの影響がすごく大きかったんだと思うわけで、今かなりの数が回復しているわけなんですけれども、先ほどの経済効果の数からいったら、まだまだこれからも頑張っていただきたいと思うわけでありますけれども。

ここで、最近、その前に、糸魚川にはディスカバー糸魚川という、ありますわね。たしか英語と中国語でしたっけ、でやってる。これのアクセス数とか、これは、フォロワーとかはないのかな。

その辺の利用状況はどうなんでしょうか。

もう一個利用状況のことを言うと、観光協会の窓口ですか、多言語か何かの翻訳機を2台設置したという、前にいろいろとPRを聞いたことがあるんですけども、その辺の利用状況とか、そういったものは把握されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

大変申し訳ございませんが、ディスカバー糸魚川につきましてのアクセス数につきましては、今ほど手元に数字のほうは持っておりません。また、糸魚川駅自由通路に設置しております案内につきましても、数値のほうは観光協会のほうでは把握しているとは思いますが、今手元のほうにはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

やはり糸魚川市は、インバウンドについてどう考えているのかな。増やしたいのかな、増やすとしたらどれぐらい年度目標を持って増やしていきたいのかな。そういう姿がもう少し鮮明に出してもらってもいいんじゃないかなと。

まず、インバウンドを増やしたいのかどうか、増やすとしたらどのように増やしていくのか、年間目標を設けてやっていくのかどうか、やはり計画立てるには、そういったものが必要なんじゃないかなと思うんですけども、考え方はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

やはり日本全体で、観光客の数が減っていく中で、インバウンドの増加というのは、糸魚川市にとっては大事なものだというふうに考えております。

また、観光行政につきましては、やはりそういった大きなビジョンというのはどうしても必要なものだというふうに考えておりますので、そのようなビジョンをつくる段階におきまして、数値目標のほうを設定させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

やはりいろいろ予算を組み立てるにしても何しても、インバウンドばっかじゃないんだろうけど

も、こういうデータの下に今年はどれだけやりたいからこういう予算を取って、これだけの成果を上げてというふうにしていくべきじゃないでしょうかね。私は、もうそう思うんで、また、今されてないなら、本当に頑張っていたきたいなと思うところであります。

このディスカバー糸魚川を見たところ、今、動画がないように見えるんですけど、私の仕方が悪いのか、今やはり動画で皆さん、全部字を読んでというよりもね、訴える力が違うんじゃないかなと思うんですけども、このディスカバー糸魚川について、そういった管理や何かは、観光協会のほうでされてて、こちらじゃないんでしょうか。

また、もしもユーチューブとかそういった動画をやっていないなら、やっていくという気持ちはあるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほどご指摘のとおり、当該ホームページにつきましては、写真と文字のほうのページになっております。動画につきましては、そのほかの観光情報のホームページ等に載せさせていただいております。

ただ、その動画につきまして、じゃ、英語表記等をされてるかといいますと、まだまだ弱い面もあると思っておりますので、今後そういった面も含めて、調査・検討させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

隣の長野県の飯山市が、最近よくメディアに取り上げられて、大変にぎわっている話もよく聞くようになりました。何でかなと思って、いろいろと見たり聞いたりしてる中では、やはり前はそんなに糸魚川市と変わらなかったんじゃないかなと。また、環境においても周りに妙高市はじめ、野沢温泉だとか、あるいは長野の善光寺だとか、大きな観光地となるものがあって、その中心的な、地理的には真ん中にあるという環境を考えると、糸魚川も似てるかなと思うわけなんですけども。ここ最近、本当に伸びているような、特に外国の方が多くなっているというふうに私は思っているんですけども。その中の大きな役割を果たしているのが、外国のウェブメディアに掲載し続けているという話があって、そのウェブメディアを通じて知り合った、知った外国人が来て、今度帰ったらPRして、口コミで広がっていったのが今になってると。やはり必要な手段としては、ウェブメディアは、もう今必須じゃないかなと思うんですけども、考えはいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

インバウンドだけではなくて、観光客の誘客につきましては、有名なインフルエンサー等、そういったものを活用するのが今の主流だというふうに認識しております。当市もそのようなものを検討もさせていただいておりますし、個別につきましては活用した事例もございます。今後、インバウンド向けにどのような、またSNS等を活用すればよいかというのは検討させていただく上で、活用のほうをしてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

今、新しいようなことで、私も言いながらあれだったけども、調べてみたら2018年でしたっけ、訪日、インバウンドを呼び込むためのワークショップというのを糸魚川市でやってたんですね。県の副知事も見えたりして、かなりいい提言をたくさんされて、その後、そのワークショップ、市の職員もその中に入って、30人ほど集まってというふうにあったんですけども、それは一体どのように活用になってるのかなと。非常にいい企画で、私としては見た感じは。これは、ぜひ続けるとか、あるいはそれをやっていったら、提言されていることをもっと磨き上げていったらいいのになって思ったんですけども、ちょっと古いと言われれば古いんですが、このことについて何かありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

そのような研究会が開催されていたというのは私もちょっと承知しておりますが、その中の事業で、今どういったものがあったかと言われますと、私が推測するのは、白馬の食事難民の方を糸魚川市にお招きするシーフードシャトルバス等の事業がございました。その事業が、恐らくその研究会から発足されたものではないかなというふうに思っております。

また、その中では、市内の飲食店のメニューにつきまして、英語表記にするということも行われたというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

いろいろ提言をしたいところはあるわけですが、せっかくそういったのをやっているようなものをどんどん生かして、つなげて行って、るるぶじゃないですけども、見る、それから食べる、遊ぶ、これを観光の3要素というらしいんですけども、しっかりと磨き上げて、やっていただきたいと思います。頑張りたいと思います。

ちょっと時間の関係で、2番のほうへ入らせてもらいますが、ここではやはり、連日報道されて

いる国の動きと、それに伴う影響ですね。備蓄米の放出、これは報道によると21万トンを放出するというふうに聞いてます。何で21万トンになのか、市としてはそれをどのように考えて、影響をどのように捉えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

政府の備蓄米放出ということで、今21万トンというお話ございましたが、こちらにつきましては、昨年12月時点で、前年度の同期に比べまして、全農など主要な集荷業者に集まるお米が、21万トン減っているということで、政府のほうでは、国が備蓄しております備蓄米21万トンを放出するということで決定したというふうには聞いております。当然、備蓄米の放出ということで、今、米価が高いということでございますので、お米の価格が、どのように変動するか、その辺りは市の生産者と共に注視していかなければならないかなというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

消費者としては、やはり買うお米は毎日欠かせないものですし、もうぜひ買いやすい値段、適正な価格があるとすれば、そのような価格に戻ることがいいんじゃないかなと。生産者としては、非常に飼料も高くなってきている、飼料じゃない肥料か、肥料が高くなってきている。あるいは燃料等も、あるいは資材もみんな高くなってきている中で、生産者は少しでも高いほうがいいわけですが、その中で、今回のものがどういうふうに影響を与えるかというのは非常に注視されているところです。

今のお話で、全農に集める、本来集まるところの予定が21万トン少ないからと。私も、それは報道では見てはいるんですけども、何で全農に集まらなかったんだろうかと。去年は、前の年よりも、むしろ収量が多かったというふうに聞いてるわけですけども、この辺のことについてはどのように市では考えてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

確かに令和6年産米につきましては、全国の作況指数が101ということで、平年並みということで、令和5年産から比べれば、かなり収量的には上がっております。

ただ、前年度の米不足が大きく影響いたしまして、一部新聞等の報道にございますように、お米の価格が高騰するというようなことを期待して、在庫を抱えている卸さんがおるのではないかな。ま

た一説によりますと、個人の方々も、やはり米不足というのを経験いたしました関係で、直接農家から買い取るために農家そのものが、いわゆる個人販売用の米を抱えておる。また、消費者自身がお米を抱えとるといような状況もあるのではないかとということで報道はされております。具体的なもの、確実なものというのはなかなか見えてはこないんですけども、そうしたものがやはり、皆さんがやっぱりお米に対して非常に敏感になっておられると、米の数量に対して敏感になっておられるということが、やはり大きく影響してるのかなというふうには感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

心配するのは、やはり消費者の米離れ、それから、今日か昨日の報道にもあったけれども、民間業者は高くても、高い関税を払ってでも輸入米を買っていると。今そちらのほうを使つてると。関税を払ってでもやっているというふうな状況になってきていて、非常にあまりいい状況じゃないなと思うわけですね。やはり供出が全農のほうに行かなくなったというのは、今言われたような理由もあるだろうけども、ちょっとこれは全農のほう、あるいは農協の供出に対するガバナンスといましようか、コントロールが利かなくなってきたんじゃないかなと。その原因は何かかなと思ったりするんですけども、まずその前に、糸魚川市においては、供出量というのは変わったのか、変わらないのか、その辺の把握から、ちょっとその辺のことを捉えてみたいと思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

糸魚川市におきましては、契約数量に対して、僅か、少しですけども若干数量が減ってるというのは聞いておりますが、それは、作況等の影響もあるかと思しますので、確実にほかへ回るといことは言えないんですけども、今のところ、6年産米につきましては、おおむね契約数量と同じ量が、農協のほうへ出荷されとるといふふうには聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

一つは、これもう私独自のあれなんですけども、心配なんですけども、昨年、JAは合併をしました。広域化しました。これはもう全国的な流れであって、どんどん全国でいろんなJAが合併して大きくなって的过程中において、JAと市民との、あるいは生産者との結びつきというものはどうなのかなと。そういったのも表れている一つじゃないかなと、私は心配してるわけですね。なの

で、その辺に対する心配、ぜひ地元においてはしないようにしてもらいたいと思います。その辺の考えが1つと。

それから、今回21万トン供出するに当たって、その補填をまた新米から取ると。今年の不足分プラス通常のということも考えられるんだけど、単純に言うと、じゃ21万トンの、例年も21万トンとすれば、40万トン以上のものを今年の新米から取るのかなと。そうすると、もうまた薄くなっていくというのが見えていくわけなんですけれども、その辺の心配はないのかどうか、考えを聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

国のほうでは21万トンの備蓄米の放出ということで、早ければ3月下旬から4月上旬、店頭に出るのではないかとことを言っておられます。21万トンについては、基本1年以内に買い戻すという条件で放出すると、問屋のほうへ卸すということで聞いております。

ただ、当然、今年度のお米の作況の状況等によって見直しもあり得るというふうに聞いておりますので、その辺り、今年の作況状況によって変わってくるのかなというふうには感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

非常にここへ来て米、ここ数年、兆しがあったわけですけどもね、非常に逼迫した状況だなと。この逼迫した状況を招いているのが、やっぱり農政の失敗じゃないかなと思って、見ているわけなんですよね。これも2018年でしたっけ、減反が廃止になりました。減反調整が廃止になったけれども、転作奨励金はずっとやってる中で、本当に政府の、農政としては、需要と供給の逼迫した状況もずっと続けてきている。なもんだから、今回、南海トラフの地震でしたっけ、そういう能登地震もあったわけですけどもね、そういった災害や、あるいは猛暑や何かこういった条件の中によって、すぐに何か事がちょこっとあったら、もうすぐに逼迫する状況を招いているんじゃないかなと私は思うんですけども。行政として、市のほうとしては、その辺のところ、言いづらいところはあられるかもしれませんが、そういった考えはどのように捉えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

今言われました国の施策につきまして、市のほうとしてどう判断するかということですけども、それについての答えというのはなかなか出てこないんですが、昨年、食料農業農村基本法が、半世

紀ぶりに改正となりました。その主な理由というのは食料安保ということで、需給、食料の確実な供給ということを主な目標として立てておりますので、今後、それに対します食料農業農村基本計画が、この３月末には出てきますので、そうした計画を注視いたしまして、それに倣った市の施策を打っていききたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

それが大事なんですよね。その基本計画、どれだけ反映されるかどうか、ちょっと気になるところで、こういったことも言わせてもらったりもしてるんですけども。本当にこれから、この政策によっては生産者に与える影響は非常に大きいというふうに思っておりますし、また、これによって生産意欲が上がるか下がるかということで、市内の生産者も高齢化しているわけであって、耕作条件もあんまりよくない中で、今もってるのは、かなりそういう意欲、モチベーションによるところが大きいんじゃないかなと思いますので、しっかりそれを見ていただきたいなと思うところであります。

そのコシヒカリは、暑さに弱いわけですよね。もうそれはもう定着しつつあるような中で、暑さが弱いから品質の低下を招くと。

つい先日も、極早生米の話があったりとか、品種改良が大分進んできているんですけども、市内において、ここには、新大コシヒカリもそうなんですけども普及しつつあるような先ほどの答弁だったんですけども、もうちょっと詳しく状況を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

糸魚川市のコシヒカリにつきましては、生産量を上回る需要があるということで、多くの農家がコシヒカリを中心に作付いたしております。

そうした中で、新たな品種といたしまして、特に暑さに強いということで、新之助ですとか新潟１３５号、あと、にじのきらめきというお米、上越の地域のほうではよく作られとるんですけども、そうしたお米が、今多く出回ってきております。

新之助につきましては、もう既に協議会を立ち上げまして、市内でも多くの方々が生産しておりますし、新潟１３５号につきましても、これは極早生の品種でございますが、こちらについては２０２６年から一般栽培を始めるということで、糸魚川の中でも試験圃場が既に動き出しております。にじのきらめきにつきましては、ＪＡえちご上越のほうでは強く推し進めとる品種でございますので、そうしたものをまた取り入れていきたいというふうに考えておりますが、最終的にやはりそれぞれ品種で一長一短ございますので、生産者の皆さんの意向というのを最優先に考えながら、もしこの品種を作りたいということであれば、それに対する支援、どうしたことができるのかとい

うことは、関係機関と、また協議して進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

いろんな品種改良をされてある中で、どれを選ぶかというのを本当に、この糸魚川は、土や、あるいは地形や水とかそういったもの、いろんなものがあるわけで、何が適しているか、しっかりとその辺の情報を把握しながら提供していただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

（2）のほうに入らせてもらいますけれども、先ほどの答弁では、今大きな影響がないと言われましたけれども、内水面で、特にサケにおいては、今年は卵の販売するものもないという状況で、これは大きな影響がないという答弁でいいのかなと。

また、時期によっては、ふだん捕れるものが捕れないという話が聞こえたりもしますし、逆に、ふだん捕れないものが入ってきたとかという話も聞くんですけれども、大きな影響はないというのはどういうことなのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

確かに水産業におきまして、私ども海面漁業につきましては、漁業協同組合等にお聞きしますと大きな影響はないというふうに聞いております。内水面につきましても、特に今年につきましては、サケの遡上が悪かったと聞いておるんですが、去年、おとし、令和4年度につきましては、一定程度の数量が上がっております。ですのでこうした影響は、すぐ地球の温暖化と結びつくのかどうなのかということが、まだ確定的なものが出ませんので、やはりもう少し長い目で見ていかなきゃならんのかなということで、現時点では大きな影響がないというようなお答えにさせていただきました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

危惧にならないかと思うんですけれども、やはりこういったものを早めにそういった状況を把握しながら、必要な対応、もし必要ならやっていかなきゃいけないので、よろしくお願いします。ちょっと次の3番に入りたいので、ここはこれだけに収めておきます。

3番の市長公約についてであります。

評価はご自身でされないで、市民にさせていただくという答弁でありました。市長については、も

う4期実績があつて、その継続の中で5期目に臨むに当たって、これはコピーしたものですけどね。選挙公報、臨んだわけですね。この主に5つの大項目を上げられて臨んだと。市民やなんかでも見ていただいたりしても、これ、このまんま今の状況にもつながるんじゃないのかなというのは、またこういったことを大きな課題にそれぞれ全部なってるねという話を聞くわけですけども、そういった声についてどう思うかなというところがあるんですけども、いかがでしょうか。

〔「暫時休憩願います」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前11時39分 休憩〉

〈午前11時40分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

5項目につきましては、非常に、その事柄によっては、ある程度動き始めたものもございますし、また、一定の効果なりも出てきてるものもございます。

しかし、まだまだいろんな課題を見た中で、可能性はあるという形の中から、私は公約として上げたものでございまして、しかしそれが、また当初の予定というか、1つの考え方からは動けないものもありました。それは、やはりこの調査する中においては課題というような、課題というか調査してみなければ分からないような課題も出てきたような形のものでございました。そのようで、やはり私が、当初望んだものまで達成してなかったということで、当初のお答えにさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

コピーして持ってきたのは、結局、といいましょうか、これをじゃ、どう思ってるのかなというところもあつたりもするので、この中のことについてちょっと伺いますけれども。やはり一番大きく出してるんで、住みよさNo.1、本当にこれ何年度だったかな、2019年のランキングで、糸魚川市は県内で一番になって、本当にこれはそういうことだなと思ってるわけなんですよ。さらにそれをブラッシュアップしていく内容かと私は理解してるんですけども。

その中において4年がたったということで、こういったランキングというのは上下するのがある

んですけども、今現在、この住みよさランキングをベースにして、住みよさというものについては、この４年間で市長はどのように捉えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

誠に申し訳ございませんが、そのランキングについては、現在のランキングは私はちょっと把握いたしておりません。

しかし、４年前に比べては、やはり私は前へ進んだと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

これは、全国で３２だから、すごい数字ですよ。今、たしか昨年は１４２位、県内では３位か４位だったかな。でも私はそれでも立派な数字だと思うんですけども。こうやってやってるわけですから、じゃ何をもっとというふうな、施策の中でね、しっかりと今からやっていかなきゃいけないんじゃないかなと思うんですけども、ちょうどコロナ禍からのということもあったり、人口減少が非常に激しいというところもありました。

ただ、やはりこれだけ上がると人口減少のスピードというものをもうちょっと抑えられたんじゃないのかなと思いたいわけですけどもね。人口減少のスピードは、前に国立社会保障・人口問題研究所ですか、がやったよりも、下振れしてる状況じゃないかなと思うんですが、その辺の人口減少のスピードというものをどのように捉えてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり減少率というような形で、今までのデータを見ながら考えてあったかと思うんですが、私といたしましては、やはりそれはあくまでも推定をした、そういった数値だと捉えておるわけですが、やはりその一定の、そういったものでは判断し切れなくて、加速するおそれがあるんじゃないかなと思っております。それぞれの、やはりそういった今予測できないようなことが起きたとき、コロナというような、コロナウイルスの感染症などというのが発生したり、また今回、これはちょっと今までのデータの中には組み込まれないことかもしれませんが、このウクライナ侵攻によって起きておる事柄についてもそうでしょうし、また、アメリカの大統領の発言等によって、大きく日本の経済が左右されると、やはり我々地方の経済も大きく振れる部分があるということになってくると、やはり我々の人口の数においても影響が出てくるかなと思っておる次第でございます。なかなかこれといった事柄というのはなかなか特定できないわけではありますが、しかし、現実

的に減っていることは間違いないわけであります。そして、高齢化が進んでおるということは、亡くなる方のほうが多くなってくるという形は、やはり人口減少に拍車がかかってくるというようなおそれを感じておる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

人口減少、拍車がかかるらしいですね。本当に少なくなっていくと、どんどん、どんどんなってくる。そういった意味で、この着眼点としては、私はいんじゃないかなと思ってはいたんですけども。ちょっと具体的に、この中にある項目の中で、今現在、直面している課題として、やはり地域医療があったり、それから、その人材があったりするわけなんですけれども、この中では、大学病院の講堂へのサテライトセンター、それから教育のほうでは、看護師の養成等について、こないだの委員会協議会、あるいは委員会の中においてお話があったように、自前でできればいいという中の発想の一つかなとは思いますが、この辺の考え、ここに出ているのと、それから先日、委員会協議会でやったときの院長の話と市長の話が、少しそごがあると申しましょか、感覚の違いのようなものを感じたものが幾つかあって、それがここにあります、例えば大学病院の高度医療のサテライトセンターという考え方と、今、地域医療構想でやっている上越での基幹病院、新しくするか、しないか、そういった話のこと、それから、そこでの中核病院となるものの分院の考え方というのが、このサテライトセンターとはちょっと相入れないものがあるようにも感じたりもします。人材育成にしても、ちょっと病院側、院長との話と医師の誘致の話やなんかにしても、何かずれがあるように感じたんですけども、主張としては前の院長からの引き継ぎからのことを考えてのことかなと思ったりもするんですけども、やはり人材育成、あるいは医師の養成、確保というものについて、その辺、一致してるようにちょっと見えなかったところが多々、多々いいですか幾つかあったもんですから、そういったところが、この公約の進捗に影響を与えたりしてるのかどうか、ちょっとその辺が気になったもんで伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その先ほどの、前段といいましょか、前の糸魚川総合病院との懇談会、協議会、そしてまた、その中の院長の発言、そして私の答弁の違いというのを感じられたということでございますが、決して違っているとは思っておりません。と申しますのは、やはり糸魚川総合病院の今抱えてる課題の中においては、やはり医師確保というのが一番大事なところでございます。それは、やはり今院長の言っているとおり進めてきたことですし、また、それに対して対応していくということでございます。

私が申し上げてきたのは、やはりこれから人口減少が進む中において、新潟県内の医療デザインが明確になってくる。そして、それに対して対応していく医療圏域の中で、上越医療圏域の医療構

想を進めていくとしたらという、進める中においては、我々の考え方はこうであるというような話し方をさせていただいたわけですので、その辺の違いがあると思っております。やはり行き着くところは同じところに行き着くのではないかなとは思っておりますが、今現在の課題を解決していく方法というところと、少し上越エリアの医療構想を視野に入れた発言の、その違いであるかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

じゃ、サテライトセンターとしてののというのをここにも書いてあるわけですけども、それと、その進捗といいたいまいしょうか、何か着手されたというふうなことが、この時期に重なってるかどうかあれなんですけど、脾臓やなんかのものがあったりもしましたけど、そのことでの、さらに磨き上げていく、充実させていくという考えだったということによろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

医師不足の中で、サテライト病院という形にならないようにしていかなくちゃいけない部分があるわけですので、サテライト病院という一つの方角で行く可能性というのは、当然あるわけでありましたが、しかし、この基幹病院、今中核をなすこの病院と同じものができるわけではございませんので、やはり糸魚川においても、サテライト病院となったとしても、やはり医師確保という形の中においては、上越圏域、同じだと思っております。上越だからそれができるんだ、サテライト病院だからできないということはないと思っています。その辺を私は主張していきたいと思えますし、また、その辺まだ糸魚川総合病院の皆様方とのまとめたものはございません。

ただ、まだまだそこまで逆に言えば、上越の医療構想が進んでないところだろうと思っております。そういう中で、我々糸魚川においては、やはり単なるサテライト病院ではあってはならないという気持ちで私はおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

時間がなくなって、もうちょっとこれいろいろあるんですけども、本当にサイクリングシティ構想と、ここに書いてあって、市長が書かれているサイクリングシティ構想というのは、どんなものだったんでしょう。何らかの着手をされたのかな。SEA TO SUMMITだとか、あるいはラインを道路に引いたりとかということはされたのは分かっているんですけども、構想ということになってくると、どのようなことを思い描いていたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当市には久比岐自転車という、やはり他にないものがあるわけでございますので、そしてまた、林道という、やはりこの旧能生町、旧糸魚川市、旧青海町で作った林道というのがあるわけであります。そういったところを生かせば、非常に私は流行な、自転車に乗られる方にとっては、場所になっていくんじゃないかな。そういうやはり場所があるわけでありますので、それをぜひ生かしていきたい。そして、そういった、今までグランフォンドで培ってきたノウハウというものも持っておられる方がおられるわけでございますので、そういった方々を中心に作り上げていきたいということで考えてまいったわけでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

じゃ、もう一点です。公民連携プラットフォーム、これもちよっとまた時間がかかるんだけど、市長の掲げていた公民連携プラットフォーム、あるいは駅北地区でいろいろと考えておられたみたいなんですけれども、サテライトオフィス、ワーケーション対応、若干、若干といひましようか進んだところも見てはいるんですけれども、この辺については、市長の達成している認識といひましようか、その辺はどうなんでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

達成したとは思っておりません。動き始めたと思っております。本当に皆さんいろいろ立ち上がっていただいたり、また連携をさせていただいて、動き始めたという捉え方でございますので、これをやはり磨き上げていくことが大切かと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

そんな社会課題の解決に公民連携プラットフォームというのは、いろんな形で各自治体においても非常に盛んに行われて、これからの在り方かなと思ってるわけなんです、今、市内においての公民連携は1つぐらいかな、ということで頑張ってこれからもやっていっていただきたいと思ひます。

また、いろいろお疲れさまでした。

終わります。

○議長（保坂 悟君）

以上で田中議員の質問が終わりました。

ここで、昼食時限のため暫時休憩いたします。

再開を午後１時からといたします。

〈午前１１時５５分 休憩〉

〈午後１時００分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。〔４番 伊藤 麗君登壇〕

○４番（伊藤 麗君）

糸魚川の未来を魅せる会、伊藤 麗です。

事前に提出いたしました通告書に基づき、１回目の質問をさせていただきます。

１、脱消滅可能性自治体宣言！みんなでつくろう１００年先の未来のあるまち。

消滅可能性自治体とは、２０５０年までに、子供を産む中心になる年齢層の２０歳から３９歳の若年女性人口の減少率が５０％を超えると予想される自治体のことであります。当市もここに含まれております。

各地方自治体からの人口減については、国全体での少子化対策で取り組むべき問題でありましたが、人口戦略会議のレポートによって、自治体間での若年層や子育て人口の奪い合いになってしまったという批判もあります。残念ながら、日本全体の人口減はすぐに止められるものではないため、全ての自治体の人口が増えていくことも期待できませんが、今後、糸魚川市ができることは、ほかの地域との人口の奪い合いではなく、糸魚川の特色や長所を大切にしながら、若年層が子供を産み育てたいと思える環境をつくっていくことではないでしょうか。

各世代間での分断ではなく、市民それぞれが“選択できるくらしとチャレンジを支え合う糸魚川へ”をスローガンに以下伺います。

（１）子育て世代に手を差し伸べるまちについて。

① 無痛分娩に係る費用への助成を検討する考えはあるか伺います。

② ３人目出産祝い金１００万円を検討する考えはあるか伺います。

③ 給食費の無償化を検討する考えはあるか伺います。

④ （仮称）駅北子育て支援複合施設建設に係る東北電力ビルの解体工事が不調のままですが、その対応を来年度に託したのはなぜですか、伺います。

（２）女性や若者が住んで喜びのあふれるまちについて。

① ふるさと納税を財源に、若者の挑戦を応援する（仮）いといがわ版マネーの虎を実施す